

注入法による扁桃体一視床下部投射の研究. 第60回日本生理学会大会, 1983, 4, 大阪.

25) 粟生修司, 大村 裕, 西野仁雄, 井上眞澄, 中野保彦: 自律系下位中枢による前頭前野の機能的調節機構. 第60回日本生理学会大会, 1983, 4, 大阪.

26) 堀 哲郎, 清原寿一, 大村 裕, 西野仁雄, 粟生修司: 体温調節行動及び摂食行動時のサル眼窩前頭野ニューロンの活動: 第60回日本生理学会大会, 1983, 4, 大阪.

27) 村本健一郎, 佐々木和男, 小野武年, 西野仁雄, 福田正治: 自由行動下ラット摂食中枢ニューロン活動と摂食行動. 第60回日本生理学会大会, 1983, 4, 大阪.

28) 粟生修司, 大村 裕, 西野仁雄: 摂食行動時の視床下部一前頭眼窩野神経情報処理とオペレート. 第30回生理学中部談話会, 1983, 10, 名古屋.

29) 福田正治, 西条寿夫, 佐々木和男, 西野仁雄, 小野武年: サル視床下部外側野ニューロンの摂食および飲水行動に対する応答様式. 第30回生理学中部談話会, 1983, 10, 名古屋.

30) 中村清実, 佐々木和男, 福田正治, 村本健一郎, 西野仁雄, 小野武年: ラット報酬行動と視床下部ニューロン活動. 第30回生理学中部談話会, 1983, 10, 名古屋.

31) 中野保彦, 大村 裕, 粟生修司, 西野仁雄, 山本智矢, Lenard, L.: オペラント摂食行動時のサル扁桃体ニューロン活動と関連する生理活性物質. 第30回生理学中部談話会, 1983, 10, 名古屋.

32) 山本智矢, 大村 裕, 西野仁雄, 粟生修司, 中野保彦: 自発的発声に始まるオペラント摂食行動時のサル前頭葉眼窩野ニューロン活動. 第30回生理学中部談話会, 1983, 10, 名古屋.

33) 佐々木和男, 柴田良子, 村本健一郎, 福田正治, 西野仁雄, 小野武年: 摂食および報酬性刺激に対するラット視床下部外側野ニューロン応答. 第30回生理学中部談話会, 1983, 10, 名古屋.

34) 西野仁雄, 小野武年, 佐々木和男, 福田正治, 村本健一郎, 高橋二郎: サルのレバー押し摂食行動と淡蒼球ニューロン活動. 第30回生理学中部談話会, 1983, 10, 名古屋.

35) 西条寿夫, 福田正治, 佐々木和男, 西野仁雄, 小野武年: サル扁桃体の複合感覚応答. 第30回生理学中部談話会, 1983, 10, 名古屋.

36) 小野武年: 視床下部ブドウ糖応答ニューロンの形態. 自律神経研究会, 1983, 10, 東京.

37) 中村清実, 小野武年, 佐々木和男, 西野仁雄, 福田正治, 村本健一郎: ラット報酬行動と視床下部

ニューロン活動の解析システム. 電気4学会北陸支部総会, 1983, 10, 福井.

38) 村本健一郎, 佐藤圭祐, 中村清実, 小野武年: マルチユニット神経インパルスから単一ユニットの弁別処理装置. 電気4学会北陸支部総会, 1983, 10, 福井.

39) 村本健一郎, 小野武年, 西野仁雄, 佐々木和男, 福田正治, 中村清実: マイクロコンピュータによる記憶タスク制御システム. 電気4学会北陸支部総会, 1983, 10, 福井.

40) 小野武年: ラット視床下部ニューロンのブドウ糖応答性と形態. 大阪大蛋白研セミナー, 1983, 11, 大阪.

41) 小野武年, 福田正治, 西野仁雄, 佐々木和男: ラット視床下部ニューロンのブドウ糖応答性とその形態および分布. 第4回肥満研究会, 1983, 12, 大阪.

42) 粟生修司, 大村 裕, 西野仁雄, Lenard, L.: サルの摂食行動時の神経情報処理とオペレート. 第4回肥満研究会, 1983, 12, 大阪.

43) 西野仁雄: サルのオペラント摂食行動とニューロン活動. 第5回動物生理学若手の会研究会, 1983, 12, 東京.

44) 村本健一郎: マイコンによるサルの視覚性タスク制御. 第5回コンピューター研究会, 1983, 4, 大阪.

## 生 化 学 (1)

教 授	岡 本	宏
助 授	野 瀬	清
助 手	伊 藤	信 行
助 手	山 本	博
文部技官	恒 田	則 子

### ◆ 著 書

1) Okamoto H. and Yamamoto H.: DNA strand breaks and poly (ADP-ribose) synthetase activation in pancreatic islets—a new aspect to development of insulin-dependent diabetes and pancreatic B-cell tumors, In ADP-Ribosylation, DNA Repair and Cancer, by Miwa M., Hayaishi O., Shall S., Smulson M., and Sugimura T. (Eds.), 297 — 308, Japan Scientific Societies Press, Tokyo and VNU Science Press BV, Utrecht The Netherlands, 1983.

2) Okamoto H.: Insulin biosynthesis under

physiological and pathological conditions. In Gunma Symposia on Endocrinology, by Institute of Endocrinology, Gunma University (ed.), Vol. 20, 21 - 37, Center for Academic Publications Japan, Tokyo, 1983.

3) Watanabe M., Itoh, N. and Okamoto H. : Translational control of proinsulin synthesis by glucose, In Endocrinology, by Shizume K., Imura H. and Shimizu N. (eds.), No. 598, 266-270, Excerpta Medica, Amsterdam-Oxford-Princeton, 1983.

#### ◆ 原 著

1) Nose K. and Okamoto H. : Detection of carcinogen-induced DNA breaks by nick translation in permeable cells. Biochem. Biophys. Res. Commun. **111** : 383-389, 1983.

2) Uchigata Y., Yamamoto H., Nagai H. and Okamoto H. : Effect of poly (ADP-ribose) synthetase inhibitor administration to rats before and after injection of alloxan and streptozotocin on islet proinsulin synthesis. Diabetes **32** : 316-318, 1983.

3) Itoh N., Obata K., Yanaiharu N. and Okamoto H. : Human preprovasoactive intestinal polypeptide contains a novel PHI-27-like peptide, PHM-27. Nature **304** : 547-549, 1983.

4) Okamoto H., Itoh N. and Obata K. : Molecular cloning and sequence analysis of cDNA coding for human vasoactive intestinal polypeptide (VIP)/PHI-27 precursor. Regulatory Peptides **6** : 320, 1983.

5) Nose K. and Kurashina Y. : Distribution of nucleosomes on reconstituted chromatin from cloned mouse  $\beta$ -globin DNA. FEBS Lett. **159** : 251-255, 1983.

#### ◆ 総 説

1) 岡本 宏 : ランゲルハンス島B細胞の DNA 鎖切断に伴うインスリン合成阻害とB細胞の腫瘍化について——インスリン依存性糖尿病の発症と防止についての新知見. 医学のあゆみ **124** : 1-12, 1983.

2) 山本 博, 岡本 宏 : インスリン依存性糖尿病発症とインスリン産生腫瘍発生の分子機構. 細胞工学 **2** : 1328-1337, 1983.

3) 岡本 宏 : DNA 損傷と糖尿病——インスリン依存性糖尿病発症の基本機構. 内科 **53** : 301-305, 1983.

4) 岡本 宏 : ヒト神経芽腫培養細胞の Vasoactive Intestinal Polypeptide 遺伝子の発現と調節. 組織培養研究 **2** : 25-27, 1983.

#### ◆ 学会報告

1) 岡本 宏 : 膵臓B細胞の代謝応答. 文部省科 研費特定研究シンポジウム「代謝応答とその病態」, 1983, 1, 東京.

2) 内潟安子, 山本 博, 岡本 宏 : 催糖尿病物 質投与前後におけるポリ ADP リボース合成酵素の in vivo 制御. 第26回日本糖尿病学会, 1983, 5, 大阪.

3) 永井秀明, 本多成光, 滝島章子, 河村明典, 日野原好和, 小泉益男, 中野英樹, 岡本 宏 : 新しい経口糖尿病治療薬の開発. 第26回日本糖尿病学会 総会, 1983, 5, 大阪.

4) 野瀬 清, 岡本 宏, 二階堂修 : 活性および 不活性遺伝子の DNA 傷害とその修復. 第56回日本 生化学会大会, 1983, 9, 福岡.

5) 内潟安子, 渡辺 誠, 山本 博, 伊藤信行, 岡本 宏 : 膵ランゲルハンス島無細胞 proinsulin 合成系の確立とその性質. 第56回日本生化学会大会, 1983, 9, 福岡.

6) 早川由美子, 小幡賢一, 伊藤信行, 岡本 宏, 矢内原昇 : Cyclic AMP による Vasoactive Intestinal Polypeptide (VIP) の誘導機構. 第56回日本 生化学会大会, 1983, 9, 福岡.

7) 伊藤信行, 小幡賢一, 岡本 宏, 矢内原昇 : ヒト Vasoactive Intestinal Peptide (VIP) cDNA のクローニングと新しい神経ペプチド PHM-27 の推定. 第56回日本生化学会大会, 1983, 9, 福岡.

8) 山上孝司, 高沢 伸, 山本 博, 岡本 宏, 三輪淳夫 : 催糖尿病物質とポリ ADPR 合成酵素阻 害剤の併用投与による膵B細胞腫瘍化とその機構. 第56回日本生化学会大会, 1983, 9, 福岡.

9) 野瀬 清, 岡本 宏, 二階堂修 : 発癌剤によ る正常ヒトセンイ芽細胞の活性および不活性遺伝子 の傷害と修復. 第42回日本癌学会総会, 1983, 10, 名古屋.

10) 野瀬 清, 水木 潔, 岡本 宏, 土田信夫 :  $Co^{60}$  により試験管内で形質転換したヒトセンイ芽細胞に おける Ki-Ras 遺伝子の発現. 第42回日本癌学会総 会, 1983, 10, 名古屋.

11) 山本 博, 山上孝司, 岡本宏 : インスリン産 生腫瘍の誘発とその機構. 第42回日本癌学会総会, 1983, 10, 名古屋.

12) 岡本 宏 : ヒト VIP/PHI 前駆体生合成の分 子機構. 脳腸ホルモ形態セミナー, 1983, 9, 新

濁。

13) 岡本 宏：インスリンおよび Vasoactive Intestinal Polypeptide (VIP) の生合成調節機構の解明とこれに基づく糖尿病，降圧剤の開発の可能性について (特別講演)。生物工学セミナー，1983，11，東京。

14) 岡本 宏：生理活性ペプチドと現代病。日本生化学会シンポジウム「遺伝子操作による生命現象の解明」，1983，11，金沢。

15) Okamoto, H. : DNA strand breaks and poly (ADP-ribose) synthetase activation in pancreatic islets—a new aspect to development of insulin-dependent diabetes mellitus and B-cell tumors —(Special Lecture). International Symposium and Histopathology Seminar of the Endocrine System of Laboratory Animals, 1983, 4, Nara.

16) Okamoto H. : Modification of genes by beta-cell toxic agents (Invited Lecture). STENO SYMPOSIUM V on “Molecular Aspects of the Development and Function of the Endocrine Pancreas”, 1983, 5, Copenhagen.

17) Okamoto H. : Molecular cloning and sequence analysis of human vasoactive intestinal polypeptide (VIP) mRNA (Invited Lecture). International Symposium on “Vasoactive Intestinal Peptide (VIP) and Related Peptides”, 1983, 9, Brussels.

## 生 化 学 (2)

教 授 藤 岡 基 二  
助 授 小 川 宏 文  
助 手 五 味 知 治  
文部技官 高 田 義 美

### ◆ 原 著

1) Gomi T. and Fujioka M. : Evidence for an essential histidine residue in S-adenosylhomocysteine from rat liver. *Biochemistry* **22** : 137–143, 1983.

2) Takata Y. and Fujioka M. : Chemical modification of arginine residues of rat liver S-adenosylhomocysteine. *J. Biol. Chem.* **258** : 7374–7378, 1983.

3) Ogawa H., Ishiguro Y. and Fujioka M. : Guanidoacetate methyltransferase from rat

liver : Purification, properties, and evidence for the involvement of sulfhydryl groups for activity. *Arch. Biochem. Biophys.* **226** : 265–275, 1983.

### ◆ 学会報告

1) 小川宏文，石黒義久，藤岡基二：グアニド酢酸メチルトランスフェラーゼのチオール/ジスルフィド変換による不活性化。第1回日本生化学会北陸支部会，1983，5，金沢。

2) 五味知治，藤岡基二：ラット肝 S-アデノシルホモシステイナーゼと基質アデノシンの結合。第56回日本生化学会大会，1983，9，福岡。

## 病 理 学 (1)

教 授 北 川 正 信  
助 授 三 輪 淳 夫  
助 手 村 井 嘉 寛  
文部技官 熊 田 時 正

### ◆ 著 書

1) 成田亘啓，春日宏友，宮崎隆治，北川正信：石綿肺，三上理一郎編 間質性肺疾患とその周辺，内科 Mook **22** : 219–226，金原出版，1983。

### ◆ 原 著

1) 北川正信，三輪淳夫，熊田時正：推奨できる簡便な類骨染色法(吉木法)。病理と臨床 **1** : 155–158, 1983.

2) 飯田博行，水村泰治，浦岡忠夫，高田正信，杉本恒明，三輪淳夫，山岸高由：腸球菌による感染性心内膜炎に伴った膜性糸球体腎炎の1剖検例，日内会誌 **72** : 320–326, 1983.

3) 塩谷直久，堅田 均，三上理一郎，成田亘啓，佐田和夫，宮崎隆治，大野良隆，螺良義彦，北川正信，宍戸真司：胸膜肥厚斑の形成過程を観察しえた石綿被曝露者の1剖検例，日胸疾会誌 **21** : 276–281, 1983.

4) 北川正信，大谷信夫，大家他喜雄：病変分布に左右差のみられたびまん性汎細気管支炎の1剖検例，厚生省特定疾患 間質性肺疾患調査研究班 昭和57年度研究報告書 161–163, 1983.

5) 龍村俊樹，山本恵一，村上 新，津田基晴，北川正信：Cis-platinum 併用多剤化学療法 (CMAF療法) の進行肺癌に対する効果。肺癌 **23** : 55–64, 1983.

6) 北川正信，伊藤正己：石綿曝露関連肺癌——剖検記録から——，日医会誌 **89** : 1967–1972, 1983.